

相談しやすい教師に関する基礎的研究

農業科 高柳 真人

1. はじめに

教師が教職を遂行する際、進路相談をはじめとする相談活動を行う機会が少なくない。中溝（2000）らの都立高校生を対象とした調査でも、相談相手として、担任が19.7%、担任外の教師が11.5%選択され、友人の45.8%、親や家族の43.6%には及ばないものの、担任と担任外の教師を合計すれば31.2%が相談相手となっており、生徒にとっての重要な援助資源になっているといえよう。

山口ら（1992）が、学業不振、進路、登校拒否、万引きなど12の学校カウンセリング場面における教師の応答様式を調査した結果、カウンセリングの研修を積んだ教師は、非指示的応答（受容的応答。非指示的カウンセリングの立場をとる。生徒を感情的・共感的に理解し、生徒の言い分を受容する）を支持していること、一方、カウンセリングの研修経験を持たない教師は、指示的応答（指示的カウンセリングの立場に立脚した助言・忠告・指導に重点をおく）や、援助的応答（問題の解決に教育的援助を与える。しかし、あくまでも生徒自身の自発性を重視するような応答様式）を好んで採用していることを報告している。研修歴などの要因で、教師により、相談場面での応答様式が異なることが示されたといえよう。

一方、相談する生徒についていえば、教師からどのようなアドバイスを受けることを期待しているか、あるいは教師がどのような態度で対応することを望んでいるかについて、中学生を対象に調査した山口ら（1989）の研究では、中学生は、教師の非指示的応答よりも指示的応答や教育援助的応答を多く求めていることが示された。この点については、相談の内容や発達段階によっても異なると思われるが、一義的に、非指示的応答だけがよいというわけではないのかもしれない。相談の内容や心理的状态など、その生徒のニーズに応じた適切な対応を心掛けることが必要になるのであろう。

とはいえ、まずは、生徒が教師に相談を持ちかけなければ相談活動は始まらない。本研究では、教師が、生徒の相談に関する有力な援助資源として機能していくための方策を検討していくための基礎的な知見を得るため、生徒が相談しやすい教師の特性について検討する。こうした調査はこれまでも行われていようが、本研究では、

生徒の抱くイメージの全体像を捉えるため、描画も併用して、相談しやすい教師のイメージを捉えようとしたところに意義が認められよう。

2. 相談しやすい教師のイメージ調査

平成12年2月に、高柳が担当する授業のまよめの時間の一部を利用し、相談しやすい教師、生徒指導の教師のイメージを調査した。生徒指導と教育相談の関係については、教育相談を生徒指導の一部とする説、訓育的指導と相談的指導が生徒指導の両輪であるとする説、訓育的指導と相談的指導が一人の教師の中で統合されているべきという説、訓育的指導と相談的指導を教師間で分担されるという説、子供に添うという教育相談の原理を生徒指導の原理とする中核説などがあるが、実際の生徒指導の教師のイメージが相談しやすい教師のイメージと重なるかどうか調査したいと考え、相談しやすい教師の他、生徒指導の教師のイメージの記述も求めた。勿論、相談活動は、全ての教職員がになうものではあるが、校内体制として考えた場合、生徒指導部がその役割の中心になると考えられるからである。調査用紙を配布し、以下の質問を行い、質問に沿った回答を求めた。

「①『生徒指導』の先生のイメージを絵で示し、同時に、その先生の特徴（年齢、性別、教科、性格や特徴等）を言葉でも書いて下さい。中学校と高校で違う場合、両方書くか、学校の種類を書いて置いて下さい」

「②あなたの『相談しやすい先生』のイメージを絵で示し、同時に、その先生の特徴も書いて下さい」

3. 相談しやすい教師のイメージ

45名からの回答があり、そのうち28名（全体の62.2%）の回答に描画が添えてあった。17名の回答は言葉だけであった。相談しやすい教師のイメージ画を図1に、生徒指導の教師のイメージを図2に示す。

相談しやすい教師に対してネガティブなイメージの表出はなかった。一方、生徒指導の教師のイメージとして、ネガティブなイメージが68.9%（31名）、ネガティブで

ないイメージ（ポジティブ、ニュートラルの両方を含む）が40.0%であった。合計が100%を超えるのは、中学校と高校でイメージが違う例がいくつか描かれていたためである。中学、高校の両方が描かれている場合、高校の教師の方がポジティブなイメージを表現されることが多い。しかし、全般的には、生徒指導の教師に対しては、ネガティブなイメージが多く、相談しやすい教師というイメージは少なかった。相談しやすい教師と生徒指導の教師に対するイメージの間にも、カウンセラーと教師の違いとまではいかないにせよ、両者を分ける隔りがあるように思われる。生徒指導は、「本来、一人一人の生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、さらに将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導・援助」であるとされる（文部省、1988）が、庄司（1999）や高柳（1999）が大学生を対象に調査した結果同様、実際に中等教育段階、とりわけ中学校で行われている生徒指導には、ネガティブなイメージがつきまとうているように思われる。

(1) 相談しやすい教師のイメージ

図1に、言葉によるイメージともよく対応していると考えられる描画の例をいくつか載せた。また、言葉によるコメントのあった回答を、いくつかの観点から整理してみると以下ようになる。

① 年齢

コメントされていたのは、関係なしが4名、若い及び20歳代7名、30歳代、40歳代、青年と中年の間、母親位各1名であった。回答率が高くないが、その中では、どちらかという若い教師の割合が高いが、関係なしも含め、年輩者もいる。

② 性別

これも回答率が高くないが、男女とも4名ずつで、特に、性差はないのかも知れない。

③ 教科

社会が3人、保健が2人、理科、美術、文系の先生が各1人であった。特に、目立って多い教科はないが、あえて言えば、文化系の教科ということになるだろうか。

④ 特徴

〔応答の仕方〕

話をしっかり聞いてくれる(2)、グチを言える(2)、人の話の腰を折るようだったり、発言のチャンスを与えない人は苦手、じっくり聞いてくれる、押しつけて話さない、相談に対して余計なことは言わない、真剣に話を聞いてくれる、人の話を聞くのが上手い、「例えばこん

なのはどうか」ではなく「～という方法もある」という言い方が好き、話す時、人の話に合わせてくれる、生徒の気持ちを見抜けるなど28.9%の生徒は、アドバイスをもらったりするより、じっくり話を聞いてもらうことを望んでいる。

近藤（1994a）は、「教師になってからも、さまざまな問題や悩みを抱える学生の相談にのることが多くなったが、何年かするうちに、それまで経験したことのない壁にぶつかっていることに気がついた。ある学生の言葉を借りれば、『先生だと話せない』という壁である。過去の恥ずかしい経験、自分の中の醜い感情、或いは家族の暗い悲惨な状態等、その学生をもっと深いところで苦しめているものの目前までくると、学生の自己表現の歩みがぼったりと止まり、『こんな醜い自分、こんなに醜い家族のことを先生に知られたら、先生に何と思われるだろう?』という怯えが彼らの心を支配し、この壁を乗り越えられることがなかなかできなくなった。…自分をもっとも苦しめている事柄を他者に向かってなかなか表現し難いという事態にクライアントが直面した時に、カウンセラー時代の私は、その壁を乗り越えること自体にはあまりこだわらずに、壁を目の前にした学生の逡巡や戸惑いや足踏みそのものにゆっくりと付き合えたり、あるいは彼の内的な力の成熟をじっくりと見守る姿勢がとれていたように思う。ところが、教師生活を何年か続けた後の私の中では、いつの間にか、私の目には小さく見える川を目前にしてためらっている学生に向かって、『そんなに大きな川ではないよ。思い切って跳んでごらん!』と促し、励まし、急ぎ立て、そして時にはいらだつ姿勢が前面に出始め、それがかえって学生の体をこわばらせ、前に踏み出す一歩を阻んでいるように感じられた。そしてそれは、自分自身のカウンセリングのスタイルの中に、普段の学習指導等の中で学生を励まし、急ぎ立て頑張らせてある達成を促す『教師的なスタイル』がいつの間にか深く侵入してきた結果であるように感じられた。また、『上に立って教える』という教師的なスタイルが、これもまたいつの間にか私とクライアントの関係に侵入し、極端に言えば、私が「より多くを知っている人間」として“君臨”し、クライアントがその私に何かを『お伺いする』というような関係が固定し、未知で不可解な心の中の何かを二人で力を合わせて探索していくという謙虚で地味な歩みが、私の関わる治療関係の中で次第に希薄になっていったように思う。俗な表現を用いれば、私は次第にカウンセリングが下手になっていった」と述べている。このように、生徒が相談に来たとい

うと、教えることに慣れている教師にとっては、アドバイスや、何らかの解答を与えたいと思うこともありそうだが、そうしたことを期待せず、ただ、話すだけでいいという生徒も一定数存在することがわかる。そうした生徒も相談に来るといふこと、相談とは、人生相談のように、人生の指針を与える種類のものだけでないことを理解しておくことも必要であろう。勿論、自分の考えを持っている(3)、一言で他人に十まで理解させられるといい、まじめな意見を返答してくれる、現実的な問題点を指示してくれる人、冷静でも解答はわかりやすいなど、アドバイスを期待する者も15.5%存在する。ただし、こうした生徒が望んでいるアドバイスは、一方的な押しつけとなるようなものでないことは明らかであろう。

〔生徒に対する姿勢〕

応答の仕方でも述べた、話をしっかり聞いたり、押しつけでないアドバイスをすることも教師の姿勢の表れであるが、その他に、友達のように接することができる(3)、自分を少しでも知っていてくれていると思う(2)、生徒と楽しもうとする意欲が見える、暴力を振るわない、生徒の特徴を掴んでくれている、人の目を見て話をする、生徒と一緒に遊ぶ、人として扱う、今の流行を覚えようとするがそれが嫌みじゃない、雑談を一緒にしてくれる、生徒と一緒に考え行動できる、生徒と同じ目線、普段からよく話す、たまに真顔、教師と生徒両方の立場、考え方をわかっている、若者に理解がある、ノリがいいなど、生徒を理解しようとしたり、尊重して、真剣に接しようとする教師を挙げた者が、半数近くに当たる46.7%存在した。媚びてはいけないが、常に上下関係しか作れないのでは、相談しにくい場合もあると思われる。相談場面では、生徒を尊重するという意味での横の関係を作れることも必要だと思われる。

〔イメージ〕

総合的なイメージとして、明るい、やさしい各8、笑顔(6)、話しかけやすい(4)、かわいい、おっとり各3、おちゃめ、おもしろい、さわやか、いい人そう各2、おだやか、のほほん、おおらか、ほんわか、子ども好きなど、安心して、気軽にその教師に近づいていけるタイプがイメージされている。複数回答可としたため、このイメージだけで、100%に相当する延べ45名分の回答があった。生徒の相談欲求に対して、拒絶的でない、開かれた姿勢を持つことの重要性が示唆されたと思われるが、そうした姿勢は、ここに挙げたような具体的な雰囲気やイメージとして生徒に受け取られていることが考えられる。

描画との関連について、主観的な判断が混じることを覚悟して述べれば、生徒の描いた教師の表情などに、これらのイメージが投影されていると思われる。

(2) 生徒指導の教師のイメージ

図2に、言葉によるイメージに対応した描画の例をいくつか載せた。言葉によるコメントのあった回答をいくつかの観点から整理してみると以下ようになる。

① 年齢

30歳代が3名、40歳代が10名、30~40歳代が5名、50歳代が5名、30歳以上、30~50歳代、40~50歳代、40~60歳代、中年、わりと高齢、父親位各1名であった。相談しやすい教師に20歳代が相当数挙げられているが、生徒指導の教師は、より高齢のイメージである。また、相談しやすい教師に、母親位という回答が、生徒指導の教師に父親位という回答があったが、母性原理、父性原理の象徴とみると興味深い。

② 性別

男が23名(51.1%)と多く、女、問わない、男とは限らない、が各1名であった。実際の、生徒指導担当教師(主事)の性別の影響がありそうである。

③ 教科

体育が14名(31.1%)、社会が7名(15.6%)、国語4名、数学、理科各2名、英語1名であった。生徒指導主事として体育科教師が担当者となることが多いことを反映していると思われる。

④ 特徴

〔応答の仕方〕

ポジティブな教師イメージの場合、優しく明るく生徒の話聞いてくれる、威厳がありどっしり構えていて視野が広い、落ち込んでいる人を見かけたらさりげなく話しかけ気分を紛らわせてくれる、常識をすごく知っている、誰にでも平等に注意を与える、意見も聞いて一つ一つ正しく指導、理解しながら正しく指導、時には厳しく、ほめる時はほめ、叱る時は叱るなどのコメントが挙げられた。これらの例に示されたように、生徒を尊重しながら、一方的でなく、しかし、ことの善悪を指導する(換言すれば、現実原則を提示する)「温厳」な教師像が浮かび上がってくる。こうした教師イメージも40%の生徒から抽出されており、生徒に受け入れられる指示的応答の例となろう。近藤(1994b)は、「カウンセラーは『現実原則』の介入の排除を意図した密室で、現実原則の中で潰されかかった『狂気』(“逸脱的”な感情論理)の復権を図る働きかけを行うのに対して、教師は学校という現実原則が支配する場そのもので、むしろ現実

原則の内在化を目指した働きかけを子どもに対して行うという、実は途方もなく大きな違いがあることがおぼろげながら見えてきた」と述べているが、ポジティブなイメージで語られる生徒指導教師は、濃淡はあるにせよ、この両者を統合している感じを受ける。

しかし、70%近くの生徒がイメージするネガティブなイメージの生徒指導教師の場合はどうか。竹刀(9)、怒鳴る(6)、こわい(5)、暴力をふるう(2)、罰を与えるのが好き、すぐキレる、元不良、いつも目を光らせている、いつもにらんでいる、命令形の乱暴な口調など、62.2%の生徒は、近寄り難い威圧的なイメージを持っている。また、人を見下す(2)、生徒を拒絶、生徒に押しつけ、自分の意見が通らないと不機嫌になる、自己中心的、相手の気持ちを理解しない、人の言うことを聞く振りをして実は聞いていない、いつもテキトウなことしか言わない、人をよく疑う、冷たい目、嫌みを言う、理不尽、生徒のためというより自分のため、学校のためなど、31.1%の生徒は、生徒を尊重しない教師像を描いている。図2にも、そうしたイメージがよく表されているように思われる。

生徒の回答をみると、実在の教師をモデルにしていると思われる(そうしたコメントが描かれたものもある)描画が少なくない。それだけ印象に残っているということであろうが、ポジティブなイメージの生徒指導教師も少なくない一方で、相談しやすさに限らず、生徒との関係性を改めて考えていく必要を感じさせるような、ネガティブイメージの教師が相当数存在するのも事実である。すべての教師が生徒指導に関わるのは勿論だが、学校における生徒指導体制を作ったり、指導方針を立てる際に中心となる生徒指導教師のあり方を今後も考えていく必要があるだろう。

3. おわりに

個人的には、生徒が成長していく過程で、現実原則も身につけていく必要があると思うし、同時に、それぞれの発達段階で抱える悩みに対して、適切な支援を受けつつ、支援者も一つの成長のモデルとしながら、自己指導能力を育てていくことができればよいと思っている。できなければならないとか、やらなければならないというのではなく、目の前にいる生徒に対して、教師が役割分担するというやり方でなく、自分が一人の教師として、現実原則も提示でき、悩みのサポートもできればよいなどと思っている。進路相談を始めとして、いろいろな相談を受ける機会があるが、受容するだけでよい時もあれば、

気持ちを受容してから指導をすべきと思われる時もあり、その判断や実行には難しさが伴うことも少なくないが、自分としては、相談される教師でありたいと思っている。

本研究では、生徒からみて相談しやすい教師とはいかなる教師であるのかを、描画も用いて調査した。絵が苦手等の理由で描画のない回答も3分の1以上あり、そうした抵抗感をいかに減らしていくかが今後の検討課題になろう。但し、描画を利用することで、性別、年齢、服装、雰囲気等が一目で、瞬間的に把握できるという点で、総合的なイメージの把握には一定の効果がありそうである。今後も、調査やその分析を通じて、この調査方法を洗練していくとともに、生徒の有力な援助資源となり得る、相談しやすい教師像を探求していきたいと考えている。

引用文献

- 近藤邦夫 1994 教師と子どもの関係づくり—学校の臨床心理学 a:pp.114-115 b:p.119 東京大学出版会
中溝比呂史・板橋幸彦・芳賀明子・足立透・飯野由美・田中忍・松木啓展・吉田弘 2000 高校生の相談に関する意識についての研究—高校生の悩みと相談相手との関連 日本教育心理学会第42回総会発表論文集 p.96 日本教育心理学会
庄司一子 1999 生徒指導 前田基成・沢宮容子・庄司一子 『生徒指導と学校カウンセリングの心理学』 pp.10-12 八千代出版
高柳真人 1999 大学生による「生徒指導」の記憶と評価について 筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要第37集 p.53 筑波大学附属坂戸高等学校
山口正二・中島剛・山本勝也・原野広太郎 1992 学校カウンセリング場面における教師の応答様式に関する研究 カウンセリング研究 Vol.25 No.1 p.19 日本カウンセリング学会
山口正二・芹澤智江子・原野広太郎 1989 相談場面における生徒の望む教師の応答様式—生徒の性格類型とカウンセリング様式の視点より— カウンセリング研究 Vol.21 No.2 p.109 日本カウンセリング学会



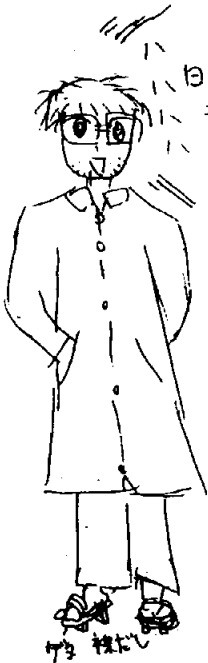
なんとなん
かタイはいい
と55かとか「えい」の
なまってるさ
わけては
いない
気がする
↑
なくて
だるさ
かきと
たより
→よさげか?



20-40代 男でも女でも
・いなかかけやすい
・笑顔が入りやすい
・明るくおもしろい
・あつた顔が見たい
・むしろ今のほうが
おほえようとするか
それか「いなか」な
おうちめさん



「仮に女の人だとしても」
「三年B組 全人死す」に出
る花子先生は初談
すいと思つ。
明るく励ましかつ、笑
言ふことには、さう
笑味。同じかよく見えて
てわかた先生。



「明るく
誰にでも
話しかける」
しかもまじめな謝罪
みんなさんでまじめな
意見も返答してあげ
少しこい愛人な
感じが良し。



ホッとしてる人
実はいろいろ考へてる人。



Yes Yes No No
男でも女でも
二三人の先生
相談して余りな事を言
わない。ほつきり自分の考へ
てはる現実的な問題を
を提示してくる人。
黒口を方が「いなか」か??
例えは「いなか」はどうか
「いなか」ではる。「いなか」
うな話もある」という考へ方が好き。

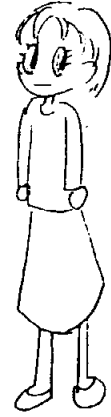


← 同い年同い年の人

女の先生の場合



清潔感が
ある方が
良し。
おとせ
服はき
てます。



- ・笑顔がステキ
- ・雑談を一語にしてくれる
- ・グチをきいてくれる
- ・理屈、ほくた
- ・生徒と「楽しもうとする」意気が見える
- ・生徒の気持ちも見かけろ
- ・至極なほうふ (いなか、世の中を苦勞して生きてきた人)

年をとって
下し。
男の先生のほうが
話しやすい。

優しい人。
年齢は特になし。のほほんとした
感じがあるとなおよし。
中学、高校と比べ。



「わかか
いなか」

④ 女の人



- 「いなか」
- おいなかはあつた

年齢はとらでも
おもしろい人
普段優しい人
子供好きの人

⑤ 男の人



- ・困ったときおほい
- ・「いなか」
- ・「いなか」
- ・「いなか」
- ・「いなか」

図1 相談しやすい教師のイメージ

若い
(20代)
体育科
教員
アムステルダム
P.



・体育会系で
竹中もってどし
バリバリして
かまじのイメージ
ある。
中学にはいい
みたい。おもしろい
人だ。生徒と
ラケットなんか
して親におや
り人だったか。
うちの学校には
いないですね。
うちの生徒指
導の先生は。

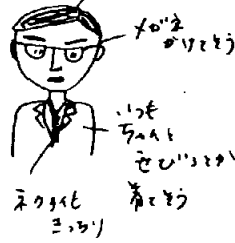
威厳があってどっぴりかたて
いて広い視野をもっているか
で。自分達の父親だらけの句
でしようか。

高校 45才、男

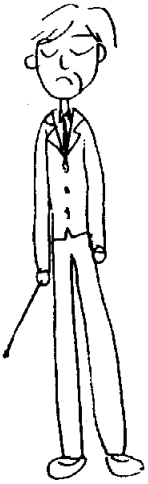


体育科
・生徒をよくみて
ほめる時はほめる
怒るときは怒る。
・いいね 三つやいといいろ
・生徒の意見もまいて
一つづつ正しく指導する
・生徒の考えもちゃんと理解
してやる

髪を
まろり



50代 男



50代 男
多量の
口調

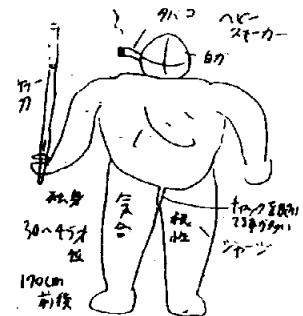
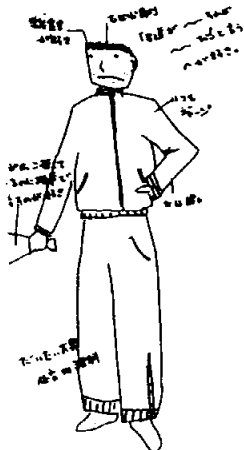
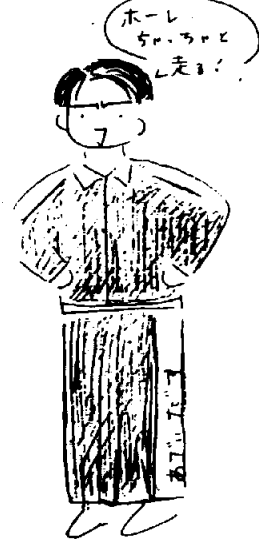
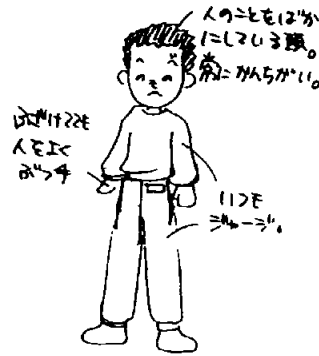


図2 生徒指導の教師のイメージ